

戦時下の経済学者

―石橋湛山と高橋亀吉との関係を中心に

摂南大学経済学部講師 牧野邦昭

- *『貧乏物語』に第一次大戦の影響
- *河上肇と湛山に周辺では深い関係
- *論理が似ている河上と亀吉
- *時代を見通す湛山、時代をつかむ亀吉
- *経済学者の協力を求めて総力戦研究
- *戦時経済遂行に役立つ欧米経済学
- *敗戦見越した活動が戦後生きる
- *時代時代で見られる経済学の使い方
- *敗戦の日、前途を見通した河上と湛山
- *薄れつつある理論と政策の関係



浅野 それでは開会いたします。（拍手）

今日は恒例の「石橋湛山賞」受賞記念講演です。先ほど11時から授賞式がありました。今年には牧野邦昭さんの『戦時下の経済学者』（中央公論新社刊）が受賞となりました。過去いちばん若い受賞者として、お名前をご存じの方はこの会場でもほとんどおられなかったと思いますが、これからのち、牧野さんの本を読んだ、講演を聞いた、とかいうことが大いに意味を持つてくるのではないかと。これからの活躍が期待される経済学者です。

今日のレジュメに収録した石橋財団の季刊誌『自由思想』の記事は憎悪ながら、牧野さんの本についての私の書評でして、笠信太郎と都留重人を間違えるといううっかりミスが文中にあ

ります。それはともかく、石橋湛山賞を受賞するとわかっていればもっと褒めておいたのが。笑。要するに、戦時下の経済学者たちがどういうことを考え、どう行動したかということですが、それは単に戦時下の話ではなくて、現代的にも非常に意味が深いと思います。

今日は、その後、石橋湛山についても研究を重ねられて、高橋亀吉と石橋湛山を中心ということができますけれども、沢山の経済学者たちに触れていただけたと思います。楽しみにお聞きくださいたいと思います。それでは牧野さん、よろしく願います。（拍手）

牧野 ご紹介にあずかりました牧野です。現在は大阪にある摂南大学で教員をしています。このたび名誉ある石橋湛山賞をいただき、こち